

子どもの感染性胃腸炎

感染性胃腸炎にはウイルス性と細菌性の2つがありますが90%以上はウイルス性です。ウイルス性胃腸炎の代表格はノロウイルスとロタウイルスです。いずれも感染力が強く、ウイルスは吐物、便から周囲（トイレ、オムツ、蛇口、ドアノブ、食器、壁、床など）に広がり、ヒトの手を介して口から感染します。予防には手洗いが有効です。



● ノロウイルスについて

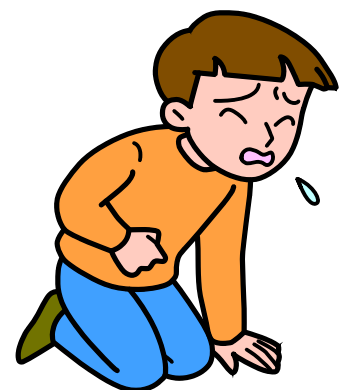
- ・ノロウイルスは毎年12月から1月にかけて流行しますが1年を通して発生がみられます。大人も罹患し、特にお年寄りが罹ると重症の脱水症を来すことがあるので注意が必要です。
- ・潜伏期間は24～48時間で、突然の吐き気、嘔吐で発症します。嘔吐に遅れて下痢を発症することがありますが多くは数日以内に軽快します。発熱はあまりみられません。

● ロタウイルスについて

- ・ロタウイルスによる胃腸炎は毎年3～5月に集中的に発生し、乳幼児に発症しやすく激しい下痢から脱水症を来しやすいことが特徴です。約半数に38℃以上の発熱がみられ3日以上続くこともあります。子どもさんから親御さんに感染することもあります。ワクチン接種により重症化を防ぐことができます。

● 脱水症状について

- ・乳幼児の感染性胃腸炎では、水分摂取が減り下痢により水分を失うため脱水症を来すことがあります。下痢が激しい場合には（半日で10回以上など）水分摂取ができていても脱水症に陥ることがあるので注意が必要です。
- ・尿量、尿回数の減少は脱水症の初期の徴候です。さらに進行すると活気がなくなり（歩かない、動かない）、体重も減ってきます。目が落ちくぼんでいる、口の中が乾いている（よだれが少ない）、手足が冷たくぐったりしている、視線が定まらない、といった場合には点滴が必要なため早めに受診して下さい。



●乳幼児に対する水分補給について

- ・感染性胃腸炎は自然軽快する病気なので、水分、糖分、電解質（塩分）を補給しながら症状の軽快を待つことが治療の基本です。薬は必ずしも必要ありません。
- ・糖分と塩分が含まれない水やお茶だけを与えることはできるだけ避けて下さい。OS-1[®]やスポーツドリンクは脱水症を予防するために有効ですが、これらでも糖分と塩分が不足することがあるので甘い物（うすめの果汁など）やしょっぱい物（味噌汁など）を少しずつ足すと良いでしょう。
- ・嘔吐発症後最初の12時間程度は、少量（スプーンやペットボトルのキャップ1杯分）から開始し15～30分の間隔をあけながら徐々に量を増やしていきます。吐き気が強い最初の数時間は無理に水分を与えなくてもすぐに脱水症になることはありません。下痢がひどい時には脂肪分の多いお菓子類は避けた方が無難です。数日間は食事を無理に与える必要はありません。

こどもは就学までに何度かウイルス性胃腸炎に罹ります。突然始まる嘔吐の多くは感染性胃腸炎が原因ですが、強い腹痛や頭痛、異常な不機嫌、血便、39℃以上の高熱などがある場合には重大な病気が隠れていることがあるので早めに受診して下さい。

メモ

